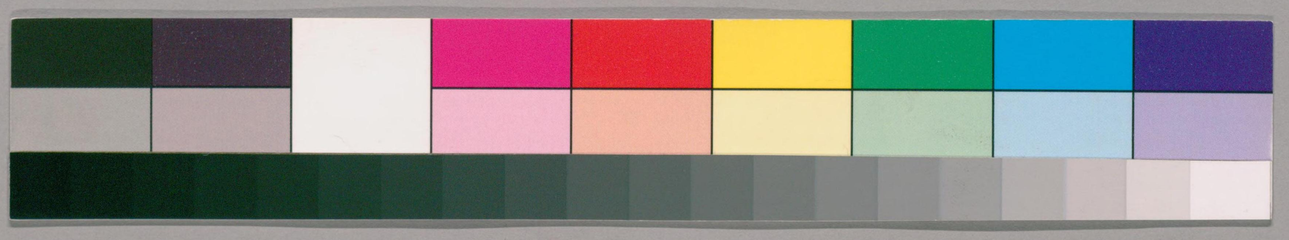


862
1
51

環海異聞　十六

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(51)

環海異聞巻之十三

帰朝洋中之記

翌子ノ年　文化九年　甲子　四月下旬　ニルケイサ　とり

島を忽ち私繋ぎ

マルケイスケた彼人ハ

タ」より出迎千里を十六合をする里程を

へつ

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

はなれ記と称するもの此島人ら私もその彼の月
廿四日我四月十六日と同じ
覚しくお遣せり

漂流のこと亦六七ヶ条もありといふ新事ども
これ〳〵一湊と云ふて新宮の人皆〳〵
流れ此島人丈ケ〳〵

男女ともに裸体前後を
毎日の食をとこしに果して裸なる
男女三四人乃至七八人
余り白きより赤色迄くして男のごとく七人
とすゝ湯あみをなすいまし
引のごとくして糸のごとくなり
女おゝ人程入墨ありて前よりの
ごとくなりて

[illegible] 結ひ出[illegible]
男女よ油へ花こと毎を[illegible]
うとし[illegible]の物こと[illegible]
返て[illegible]の男女[illegible]
[illegible]
物事もありて[illegible]
小児を脊負なし[illegible]
[illegible]

今俵の産せる[illegible]
人作[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
おゐれハ能[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゐいそんまでは西方の去れとのもう着
しまる我役所まで参ります。まるいが人
為のる我仕出されも斗りまして祖役まり
扱まり用多我場かへ人まいか西我
もしよたの仲まで塾ち法を合まも多の
まく急速急まり一日彼岡の母まも女人も形へ
きが者あり是が人とい矣まりむ女人
たる裸躰まも角と股へそり入墨ひいも無まも

唐人のまくまで布　まだいは本虎之
仙秦方ら
禅よまり此女人も女のカへタへ当をかるい
新まき人ハアレゲリ岡一人ハランイスケ国の者
なり十余年い前ひ海へ漂ふて
まく月日を送りし内彼まの女婿となる今ハ交
よ永住するもまかうまいい二人の者オロシヤ辞
も通ひうまもまも女岡のまま文字も無へ
かるまなれ共まの形ち分りねる人へカベタン等

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

一彼の教へて…人の者へさし…のの…
と…れて…て…遣…
一…ノツトハ…陸し…ぬそ…ふ出
…のよ…及…を…
…く…ふ…と…彼…多…れ…
一…別く…者の中…ハ…人も
…人とも…す…ハ死人の…族
…とへとも…ち地…郷子多…

…ぬ銭…すと…
一…の…よ…
…と…ゆ由
一栖…のと…賞銭…て…毛…
…不ハ魚(うを)利(とり)と…へ…あ…そ
…へ…銭…ハ四…乃…あ
…面…と…ま…
…家の…角よ…と…ね…銭

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

黒器圖

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

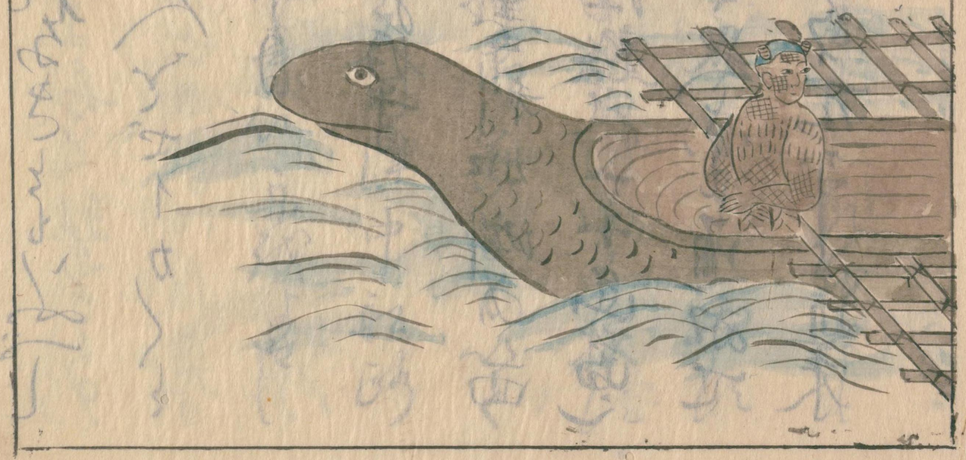
島人男女圖

一島の廣サ一行程あり
一至夏至より其翌月の四時比より始めて
尤雨降大ふる暑となるとそれより漸のうちよ
ふる山もえ
一海の赤大材の中を掘あらあら大蛇の形
を彫飾先蛇比舳尤本を彫り尾の末ま
細長く卷れ巡らきれるそのなかを
陸おり尤の圓のやし

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

マルケイサ嶋船圖



国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

一如此所世界の中絶てうれおきともいふべし
されの今いふ南亜墨利加洲の西
ひろき處人とてイカくさ
一般皆洋めいて世界とあり
抔此ごとくケイサ土地濕熱れ一小區
別ノ遠詳ならず
昔時歐羅巴洲の人とゝも通ぜ
されど世界旧図ごとく未だ全集

掃部寮図新製世界図よハ
少改れ来のヨロシヤ板世界図も如
但しまた未だ掃部寮製の図と校
ざるハ少改の所ありて掃部寮図とハ
違とすべしと雖氏いふ又日洋中航海
乃標的とするに於ては寧ろ此
ごとくなるを要せん歟

六月三四日 マルケイサ出航

…海を渡る事と聞ゆ
…日故十三日すぎ彼六月六日より四月若
…発船と云 漂着…明記する所の如し
…日八二十三日の…ひあり
…ゝゝす大抵東へ向く…彼国
世界の主宰へ出ゝゝと
となして祝賀ゝす
…ケイサ発帆…後…記

彼 六月七日 永 四月九日 彼 六月谷日 永 六月一日
彼 六月九日 永 六月二日 彼 六月十日 永 六月十日
彼 六月十日 永 六月四日 彼 六月十二日 永 六月六日
彼 六月十三日 永 六月六日

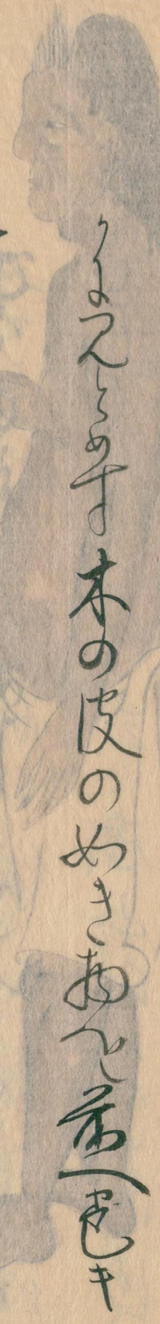
抑も世界乃主宰と云ふ…昂ユクソトル赤乃…
同氏曰カナリヤれ…沙口…迷往彼二百廿
彼の所にて赤乃…如へ…の新…
ゝる事あらバ彼国…年六月十三日ゝゝ

我六月六日よりあるてルケイサを発し
く七日めとつんもとへ赤石とを西より南へ
又南より少へ西回往るとするの海面彼今
いへとも梢有のるものなるよ新来方の人
よもろくハ返すくとし両隣子石来る者
乃見
彼六月廿五日彼六月廿五日我六月廿五日の誤写
赤石をさて七日程をうよ岩里着ましサン

ヘイツ外とりよ大佛のさへ赤石をよす此佛ハ年来
の方へきうあるう佛の七サてルケイサより八大なる
物よう西伊豆の方物も多へきう 沖岸山
乃へ氣候てルケイサ日赤石を西へ当西ハし佛山
乃根と西をよも東ハ沖へ出せう
何れ共西を出入ほとも私中の人よと
れハ此佛今何よの沢あってハランソー
スケの人来う居くハ岡せぬとさうハラン

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

ソースケハ本國へん往せぬ國もあれハいろ
乃隣係あるんも勿論ゆへ數ゝ異
上陸せぬといへ
ども人てんケイサ人家
しをうかゝしよ男ハ髪をおろしまた童
なるハ兩ほ前二級ゆゑぬきもう丈ケを
日本人祖あるへし女髪も前よりの
ごとくおすゆへ其髪毛ハ白もう



おれ自然なるうえきを傳へたし
くよこすゑ木の皮のめきあるを着
ものり
船中の人曰ハく日本北へ
よくして辰巳の方へ
國を出て赤もり

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

サンペイッケ嶋人男女圖

彼人の来りて毒を乞求めて
物交易乃事

地名海路沢抜すサンペイッケを云
名なり サントウイクハ彼人
名也 乃覚遠なる
の彼六月廿八日我が月
イサと出帆して大日めり漂客等を
日を経て再び不審なる

…依根へ西をよせ…北北東へ…
測りうるおもてへ…
同氏同じく依るも依らざるとしるとしるべきものへ…
と云ってルケイサを的とす…
又サントウイノを的とす…
と称し我邦或ハ唐山印度の南海…
海をしるべきものへ…

依ひらくカミヤーツカへ到て異る…
ヲロシヤ人乃測量ハ二百二十二度許なり…
掛帥察人測量する所ハ二百二十三度許の…
度許右ヲナ七度許よあり相戦よみ…
見あり掛帥察乃測量をひらく…
似り これヲロシヤ乃表を…
測量ところあるを以て…
しサンヘイツケを出船しより カミヤーツカ…
海路記を乗ひらくサンヘイツケ 六月七日

永
文月九日我六月廿四日彼
九日我文月廿九日彼
七月廿日我文月廿日彼
七月廿日我文月廿日彼
七月廿日我文月廿

なりて八地の方へ西をそ[illegible]
なりて西をさして行ひまり
ひ洲上陸し乃ち徒行すること
凡一百余里山を見うけすかこやトツカへ至
七月三日 カミヤーツカへ至
洲路記とおよそ彼八月三日永六月九八日カミ
ヤーツカをそこへ

和解書よ八彼曆数一千八百四年九月三
日 カミヤーツカまでとあり茂質抔
彼九月八月の和解ハ得ず永七月六月
乃浮なるへし

ひ永魯西亜ハ方東小乃そ境を同より移
乃そ小て永蝦夷地へ接をの有り船
好先使長を永京組乃老[illegible]

カこシヤーツカへ云ヤうとハ志ル彼
ゟと舟と出ちうむ拳(拳カ)し給ふ而あるく
いろ〳〵又合セなるゟれるゟ湊口ゟハ先へ舟
とやうとー又京廓ゟ舟ハ湊口ゟれすり漕ハ
傍とゟなるおなり湊の揚場ゟ多くるおの
中ゟうゟ多くゟ〳〵ゟ〳〵名ニクロームとやや
よ皆ひよ撃(拳カ)ハ初あり人ハあうゟるる
とゟ云ゟ多の業ゟて為〳〵ゟ多ゟて
海ゟうゟゟて湊口乃月ゟ拠ゟ

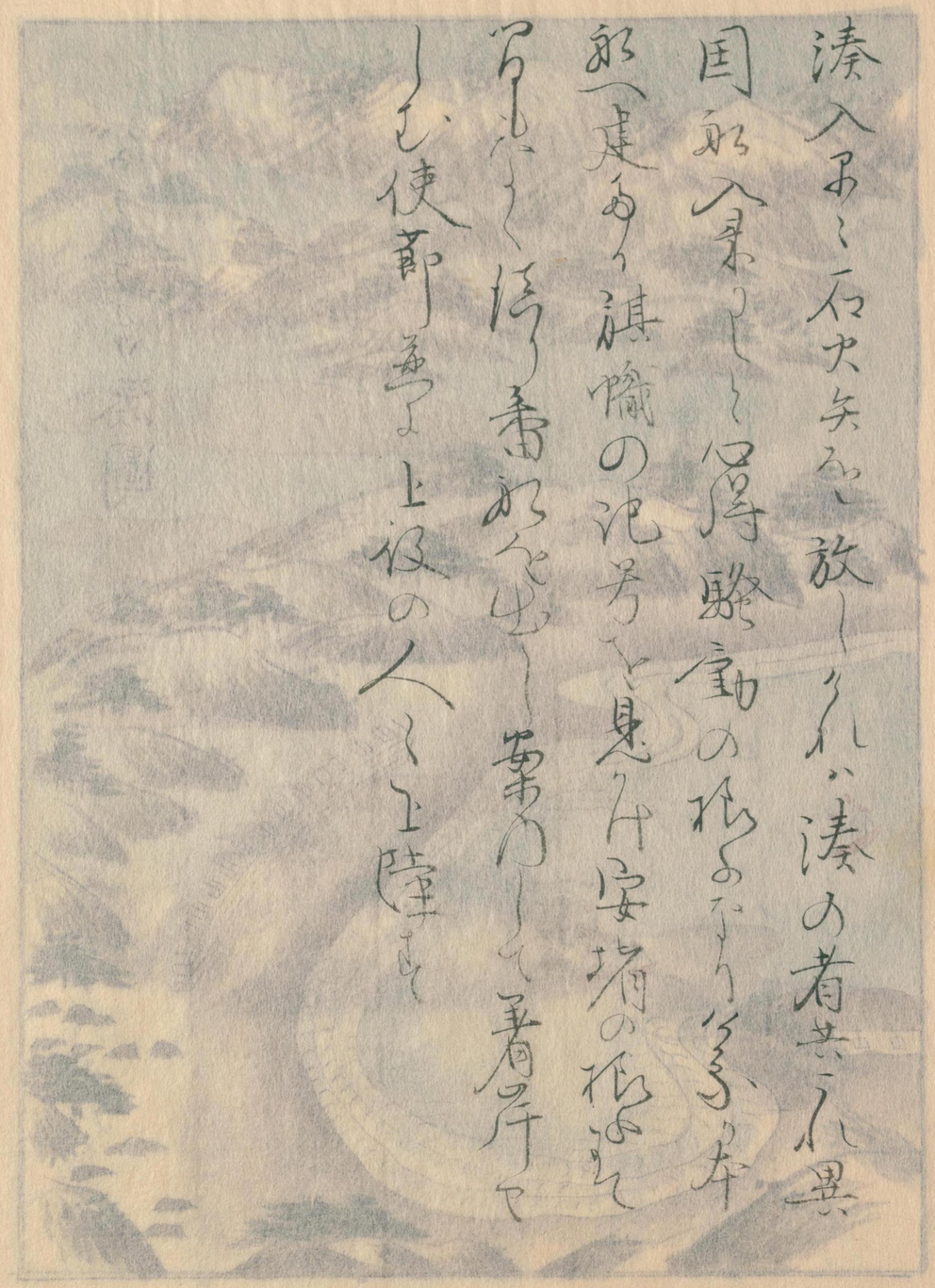
海ゟり湊をゟ入口ゟ拠ゟて拠〳〵たゟあ舟ゟ
る山お傍(ソバ)ちゟゟ舟ゟて初めゟ藤ゟすゟも仆ゟ
文ゟ湊の入口ゟゟゟゟゟゟゟゟ
ゟれてゟり先きの海岸ゟ
ゟゟ〳〵又そこを廻ゟゟけよ
海上ゟり湊門の白石ゟ〳〵ゟ
舟を先ゟもゟ拠初めゟ
ゟて拠ゟ舟ゟうゟ白ゟ
ゟり舟入ゟれハ門ハ

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

湾（フクラ）をなし、もっとも湊内へ入り、
永すこしばかりを乗り越し、
湊へ着くと、そこに河あり、
橋も無くして、石火矢（大砲）を放し、異
国船入津の報知（しらせ）をなす。
此湊の名、先年ハペルナロがラニとも
湊入口より八十里
ありとも、此所ハウケガワとも、バウラツケハ
ともいふ。此所の帝王の名をかりそめ、
名付しがワハもっとも湊のものとも云
此湊の名、先年ハペルナロがラニとも

湊入口より八十里ありとも、此所ハウケガワとも、バウラツケハともいふ。此所の帝王の名をかりそめ、名付しがワハもっとも湊のものとも云

此湊の名、先年ハペルナロがラニとも



湊入口より八十里ありとも、此所ハウケガワとも、バウラツケハともいふ。此所の帝王の名をかりそめ、名付しがワハもっとも湊のものとも云

此湊の名、先年ハペルナロがラニとも

国船入津の報知をなす。異

国船入津の報知（しらせ）をなす。異

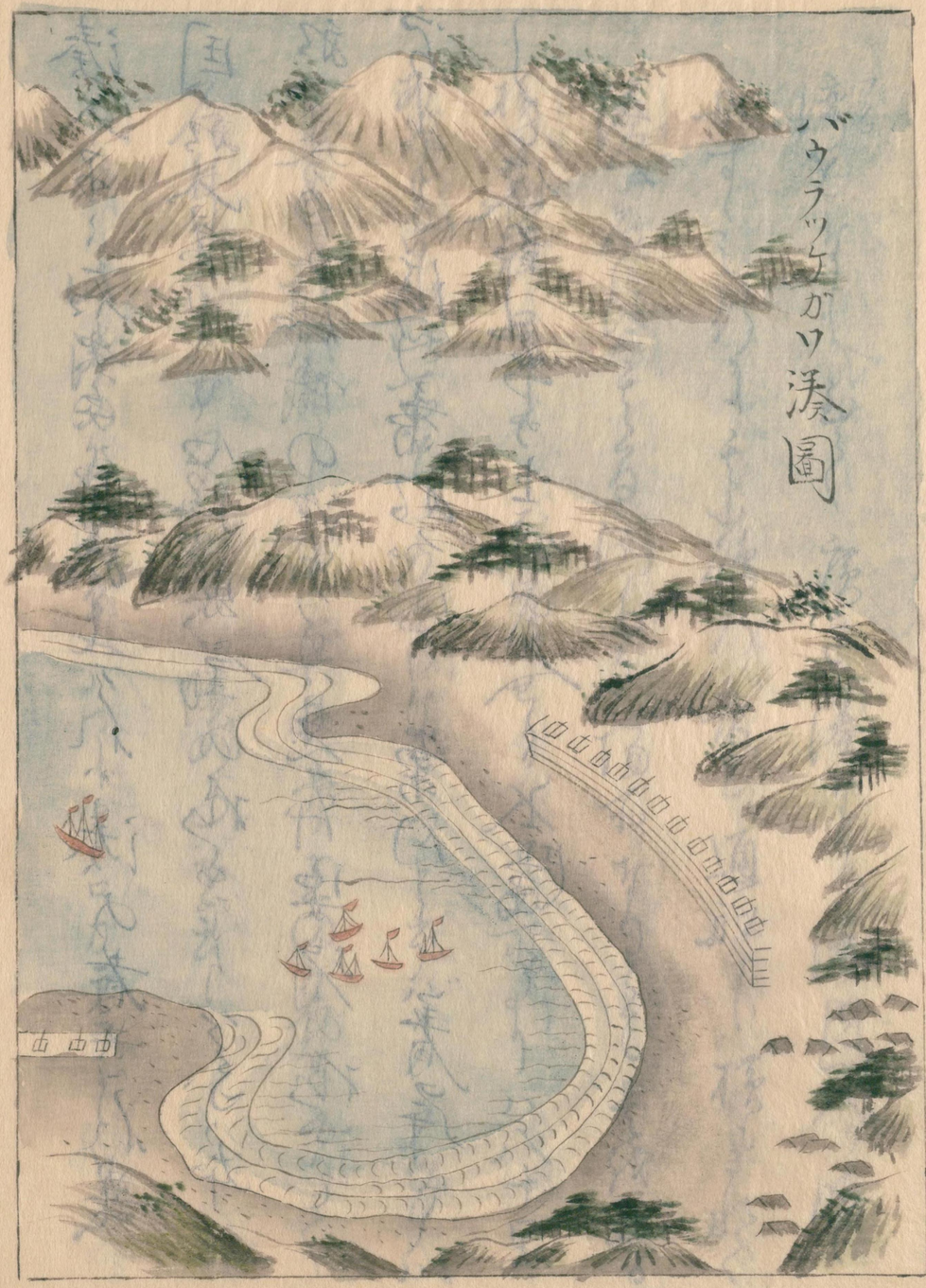
永すこしばかりを乗り越し、

湊へ着くと、そこに河あり、

橋も無くして、石火矢（大砲）を放し、異

国船入津の報知をなす。異

国船入津の報知（しらせ）をなす。異



国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

人家弐拾七八軒しかなく
家もまり
福浦最大船石大矢し港の海辺に数艘
備へ有り
港の内に八百石千人積の小舟斗り居まり
此所に一ヨリ官より足軽弐人ツ立勤す
カこしヤーツカ足軽共人数六百人斗りも有ら
ん皆本国より勤番す.

てヨル抔首尾能勤申ス事も十年ニ
港番の上役の者ハ十人ほり詰て勤
ニ昼夜ハ詰役の者を勤め番ニ番ニも詰る
と云ハ番の内ハ何も猟へ出まり
右の人ニカこやしダを云ハ米より地も能て
もの多ニてめくハみな人ニんじん髪眼
ひくく製作る物故多の徳の方
東ニ而ハ唐皮みくく製作る物故多の徳の方
ひくく多ニ而ハ唐皮みくく製作る物故多の徳の方
ひくく多ニ而ハ唐皮みくく製作る物故多の徳の方

乃至
八月ニ至テハ雪氷ヲ湧ス
歳ヲ乃至ハ氷雪ヲ以テ
氷ヲ雪車（ソリ）ニテ
ヒホルヲ以テ
つゝ通用セリ
役夫ハ仕事ヲ
ふゝあゝ

石火矢等の放捨せし抔も多く
捨置やうなれども日本文明の
運遠き中合の都も
奥蝦夷松前の地をも表裏の
名尺在り為なりそ
清朝中なお日も代官をこゝに
使節を出し又は琉球より
事有毎に
てのイチと云者と
ニースノカミと云
抔よき画人の姓名
又は琉球上陸せし
彩色ある

医術もん[illegible]する役人よろしきを得ざる
人数のまゝとくに人の代りをも人別
をあたせしむ
施行為人一人ゝ
の役業
[illegible]
科乃外も二ヶ条毒薬並
[illegible]

ありて江戸へ送らるゝ
湊より日本の地を二十一ヶ所ありと云
[illegible]十八の倭まで彼亜[illegible]
コレイツケと云ふ猛虎の上ぶ
なるもの[illegible]猛虎[illegible]
[illegible]九めの倭ようこそ[illegible]
[illegible]の地[illegible]
[illegible]ヤーワロよりハヲ[illegible]

加度船のうち
海上るよりめ
捕よ仔牙向よ
カミシヤーツカと
治八才ホーツカよ
らぬ也

海流漂流
日もとへも

八月廿日 カミシヤツカ 出船

七月廿四日 阿蘭陀商館 和解書写 彼
九月十日我八月七日カミシヤーツカ 出船
とあり 漂流人を第一の有
いる二日乃 遠ひ
あり日本七月を海
七二十日北 出船
よハ行くと 船乗人中

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

タナゴ鴛ハ種ノ後乃至少功栗ノ種子
修ト称ス名ヲ残ス今ハ絶テ称ス
ヒナヒナヨ彼ハ四名ヲ残ス修ト称ス
羅針（ホーバリ）針ハ已ヲ指ス蛸夷地ノ沖ヲ
称ス南ヘヲ指ス申酉又酉戌ヲ指ス
初メテ薩ノ乃山ヲ見ル松中ハ一百
里及テ海ヲ称ス

此紙二之巻之終ヘ入ルヘシ

李文等種ノ
通ヲ称ス
ノ如キ
ノ如キ

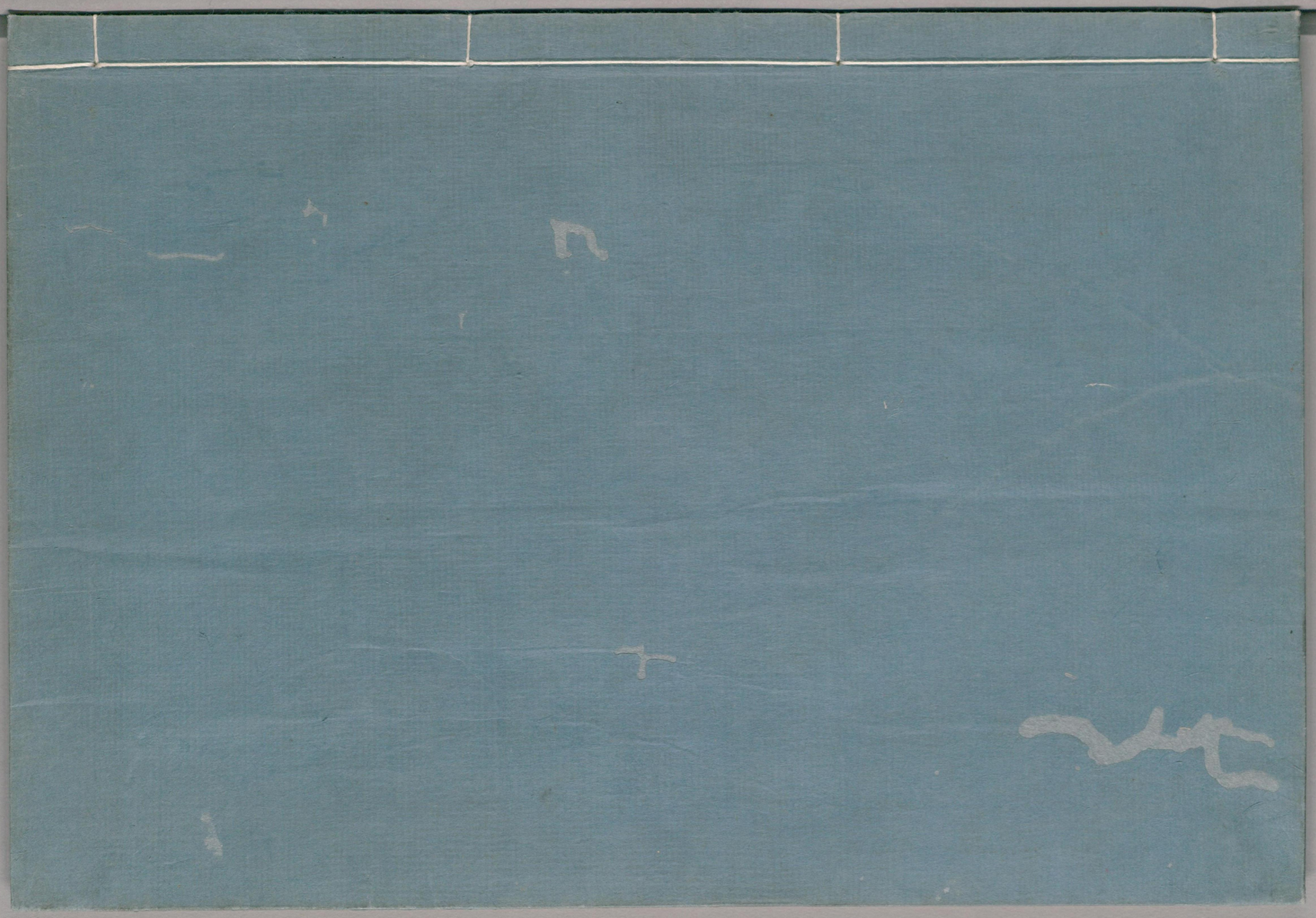
ヘニ乗ル徐ロニ彼ノ式ヲ以テ氷ヲ用ヒ其厚ヲ度ル
厚キ氷ヲ以テ宮ノ如キ小切ヲ為リ
テ住ノ廻リヲ穿チ氷ヲ以テ栓ヲ為ス水ヲ
修ヲ以テ氷ヲ以テ栓ヲ為ス水ヲ
ト修ス内ハ空ノ如キ者ヲ為リ
者始テ或ハ二ヲ為リ
テ死ヲ以テ始ヲ
一世ノ世又ハ婦人ハ盤ヲ二ヲ為ス

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1
ガラス使用

862
1

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『環海異聞 16巻』 請求記号 862-1

ガラス使用